

工藤清見・斎藤 譲: *Laurencia pinnata* YAMADA ハネソゾの秋型 Kiyomi KUDOU & Yuzuru SAITO: Autumnal dwarf form of *Laurencia pinnata* YAMADA

青森県下北半島の下風呂で、1983年9月6日に *Laurencia pinnata* YAMADA ハネソゾに類似し、それよりかなり小型、かつ小枝の多い海藻を採集した (Fig. 1)。それと同じものが北海道日本海沿岸の太田でも1983年8月29日に、筆者らの同僚、藤田によって採集されている。その四分孢子嚢は成実枝中で平行型に配列され、精子器托や嚢果 (Fig. 2) もハネソゾのそれに類似する。体の表皮細胞相互間には縦方向の原形質連絡の存在も認められたので、Subgenus *Laur-encia* マソゾ亜属の一種である。また、表皮細胞、四分孢子嚢、嚢果及び精子器托の大きさを、明らかなハネソゾのものと比較してみると (Table 1)、表皮細胞においては、赤城 (未発表) の測定した主軸の細胞の大きさと相違した部分はあったものの、その他の大部分の細胞、さらに四分孢子嚢、嚢果及び精子器托の大きさ等も、ほぼ同様な値と見なし得るのではないか、と思われた。以上のことから、今回採集された小型な材料もハネソゾに同定するのが妥当なものと思う。

能登谷ほか (1978) によると、ハネソゾを好適条件 (水温 20°C, 照度 3500 lux で、1日に12時間照明) 下で培養すると、2か月以内の短期間で生活史を完結し、発生体の高さが 2 mm 内外、枝の太さが約 0.2-0.4 mm という極めて小型なうちに成熟したことから、

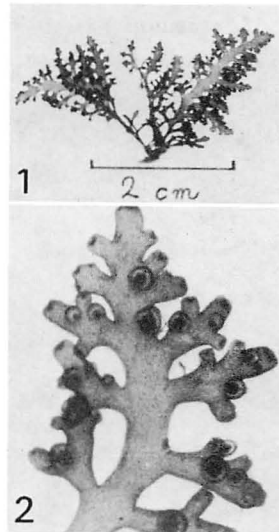


Fig. 1. A tetrasporangial specimen of the autumnal dwarf form of *Laurencia pinnata* YAMADA collected at Shimofuro, in Aomori Prefecture, on September 6, 1983. Fig. 2. A cystocarpic branch from the above collection. $\times 5$.

自然条件下では短期間に多数回の世代交代を重ねている可能性も推測される、という。その報告によると、

Table 1. Several dimensions in the autumnal dwarf form of *Laurencia pinnata* YAMADA collected at Shimofuro, in Aomori Prefecture on September 6, 1983, with other measurements from the typical form of the species (μm).

			Present material	SAITO (1967)	AKAGI (unpublished)
Epidermal cell	Main branch	length	46.0 \pm 24.3	18-35	92.4 \pm 18.1
		width	21.2 \pm 8.1	10-17	38.6 \pm 9.8
	Branch	length	35.2 \pm 10.2	30-54	
		width	22.8 \pm 8.4	18-24	
	Ultimate branchlet	length	22.0 \pm 6.5	18-26	20.3 \pm 2.9
		width	16.5 \pm 8.2	21-30	22.1 \pm 3.3
Reproductive organ	Tetrasporangium		88.7 \pm 6.4		98.7 \pm 10.4
	Cystocarp		645.6 \pm 81.3		565.3 \pm 67.5
	Spermatangial receptacle		803.9 \pm 86.2		917.1 \pm 164.3

下風呂とは極く近い函館で、本種の四分孢子体や嚢果を持つ体は6月下旬頃から認められるという。それら個体からの孢子が夏季の条件下では早急に成熟できるものとすれば、小型個体で終る可能性も考えられることになり、その様な小型なものは秋型と見なすのが良いものと思う。*L. okamurai* YAMADA ミツデンソヤ *L. intermedia* YAMADA もクロソソ等も秋の材料は一般に枝も細く小型であるが、それらも今回のハネソソと同様な形態の変異といえるのではなからうか。

引用文献

- 赤城敏正 (未発表). ハネソソ *Laurencia pinnata* YAMADA の形態. 北大水産学部卒業論文(1981年).
 能登谷正浩・須田昌宏・斎藤 譲 1978. ハネソソの孢子発生と生活史. 北大水産彙報 29: 1-6.
 SAITO, Y. 1967. Studies on Japanese species of *Laurencia*, with special reference to their comparative morphology. Mem. Fac. Fish. Hokkaido Univ. 15: 1-80.
 (041 函館市港町 3-1-1 北海道大学水産学部)

賛助会員

- 北海道栽培漁業振興公社 060 札幌市中央区北4西6 毎日札幌会館内
 阿寒観光汽船株式会社 085-04 北海道阿寒群阿寒町字阿寒湖畔
 有限会社 シロク商会 260 千葉市春日1-12-9-103
 海藻資源開発株式会社 160 東京都新宿区新宿1-29-8 財団法人公衆衛生ビル内
 協和醗酵工業株式会社 バイオ事業本部 バイオ開発部
 100 東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル
 全国海苔貝類漁業協同組合連合会 108 東京都港区高輪 2-16-5
 K. K. 白壽保健科学研究所・原 昭 邦 173 東京都板橋区大山東町 32-17
 有限会社 浜野顕微鏡 113 東京都文京区本郷 5-25-18
 株式会社ヤクルト本社研究所 189 東京都国立市谷保 1769
 山本海苔研究所 143 東京都大田区大森東 5-2-12
 秋山 茂商店 150 東京都渋谷区神宮前 1-21-9
 弘学出版株式会社 森田悦郎 214 川崎市多摩区生田 8580-61
 神協産業株式会社 742-15 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1
-